

健保業務のICT化に関する現状と取り組み

CONTENTS

1. ITS健保のプロフィール
2. 健保業務に関するICT化の現状
3. ICT化に関する独自の取り組み事例



関東ITソフトウェア健康保険組合
平成25年5月24日

Kanto IT Software Health Insurance Society



1 ITS健保のプロフィール

- 関東ITソフトウェア健康保険組合（ITS健保）は、社団法人コンピュータソフトウェア協会（旧社団法人日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会）を母体として、昭和61年4月に設立しました。全国健康保険協会（協会けんぽ）に代わり健康保険に関する業務全般を行っています。
- 設立から今日までの間、ソフトウェア産業の飛躍的、かつ、堅調な発展を背景に、現在では日本有数規模の総合型健康保険組合となっています。

<表> 平成25年4月末日現在 適用状況

- 平成25年4月末日現在、適用事業所数は約6,300社、被保険者数は約35万6千人、被扶養者数は、約21万6千人であり、加入者の総数は、57万人を超える規模となっています。
- 健康保険の保険料率は 8.5%（85/1000）、であり、協会けんぽよりも低い設定ではありますが、健康保険組合全体の平均と、ほぼ同水準の料率設定となっています。

● 事業所数		6,334 社
● 被保険者数	() 内年齢	
	男	253,674 人 (36.50歳)
	女	102,336 人 (33.73歳)
	計	356,010 人 (35.70歳)
● 平均標準報酬月額	男	425,059 円
	女	302,156 円
	平均	389,730 円
● 被扶養者数		215,997 人
● 扶養率		60.7 %
● 保険料率	健康保険	8.5 %
	介護保険	1.0 %

※ 健康保険の保険料率は、健保事業のための一般保険料率 8.37%と組合間の財政調整に充てるための調整保険料率 0.13%を合計したもの

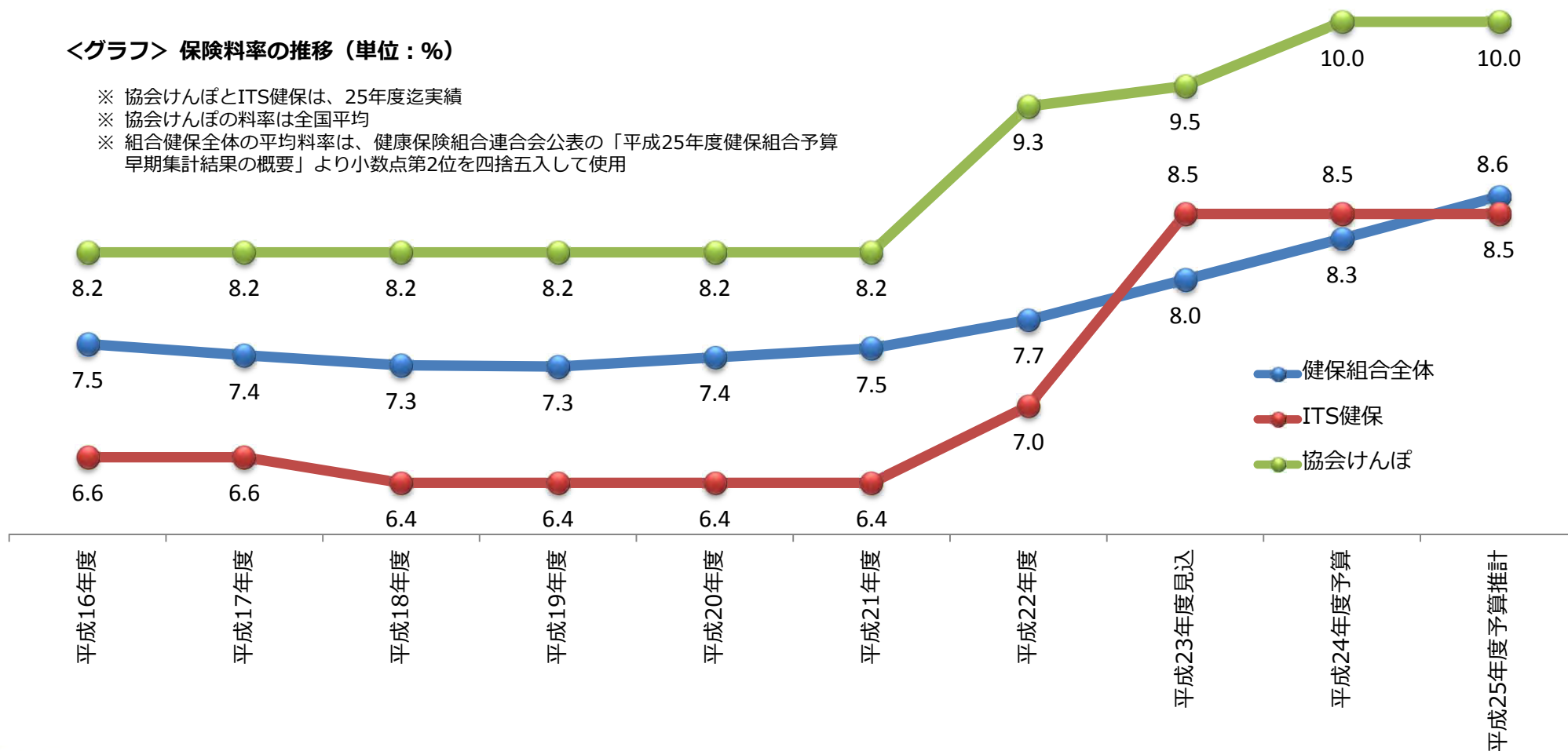
※ 扶養率は、被扶養者数を被保険者数で除して得たもの

1-1 保険料率の比較推移

- 平成21年度決算において、法定給付費等の増加に加え景気低迷による保険料収入の伸び悩みが相まって、組合創設以来初めて経常収支に赤字を計上しました。
- このため、平成22年度及び23年度の2カ年で、**2.1ポイントもの料率を引き上げ**収支の均衡を図りました。

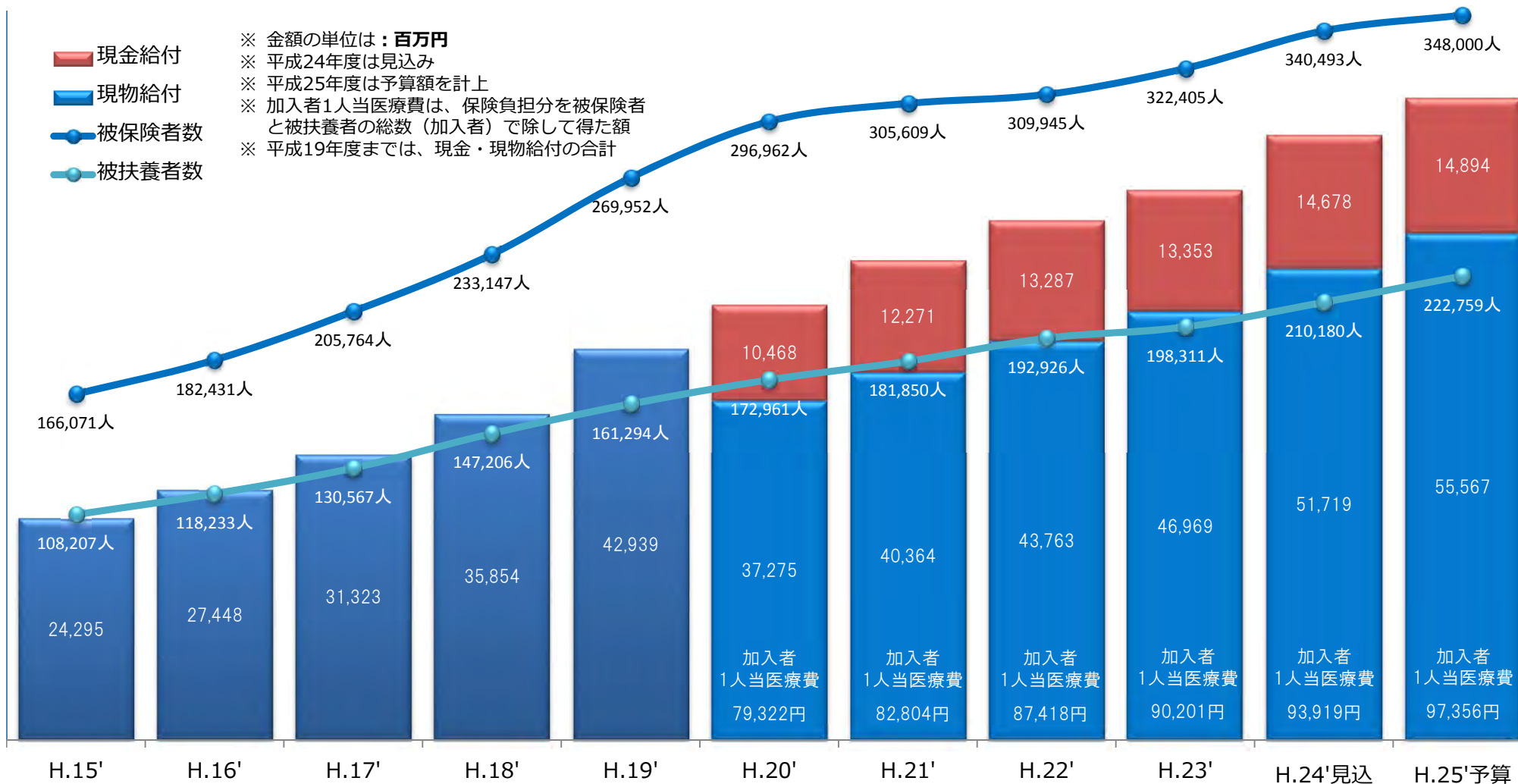
<グラフ> 保険料率の推移（単位：％）

- ※ 協会けんぽとITS健保は、25年度迄実績
- ※ 協会けんぽの料率は全国平均
- ※ 組合健保全体の平均料率は、健康保険組合連合会公表の「平成25年度健保組合予算早期集計結果の概要」より小数点第2位を四捨五入して使用



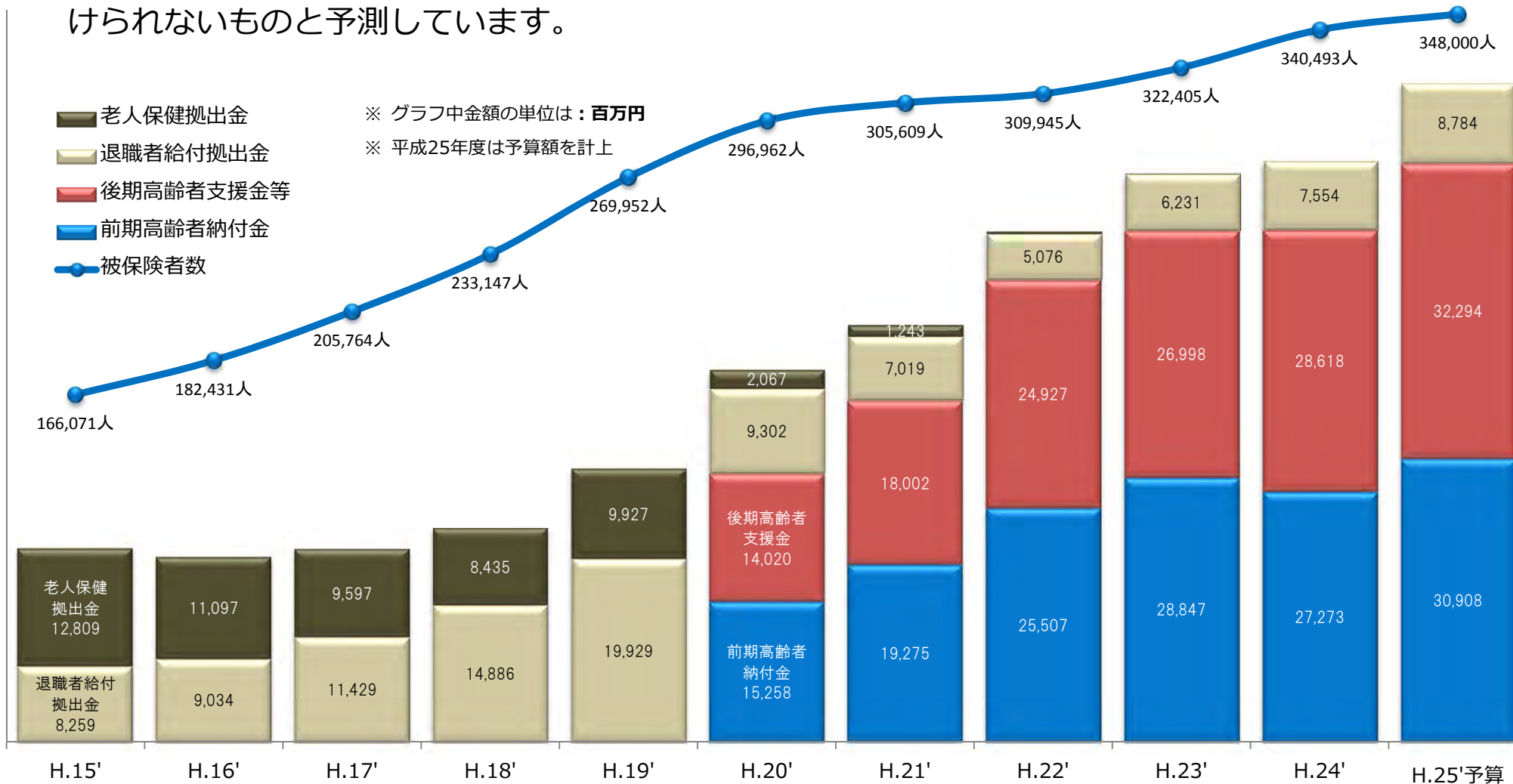
1-2 財政支出（医療費等保険給付費）の推移

■ 当組合の医療費は、加入者の年齢が若い（平均36歳）こと等から、1人当たり単価は他の医療保険者よりも低い傾向にありますが、毎年3%から4%台の伸びで推移しています。



1-3 財政支出（高齢者医療への負担金）の推移

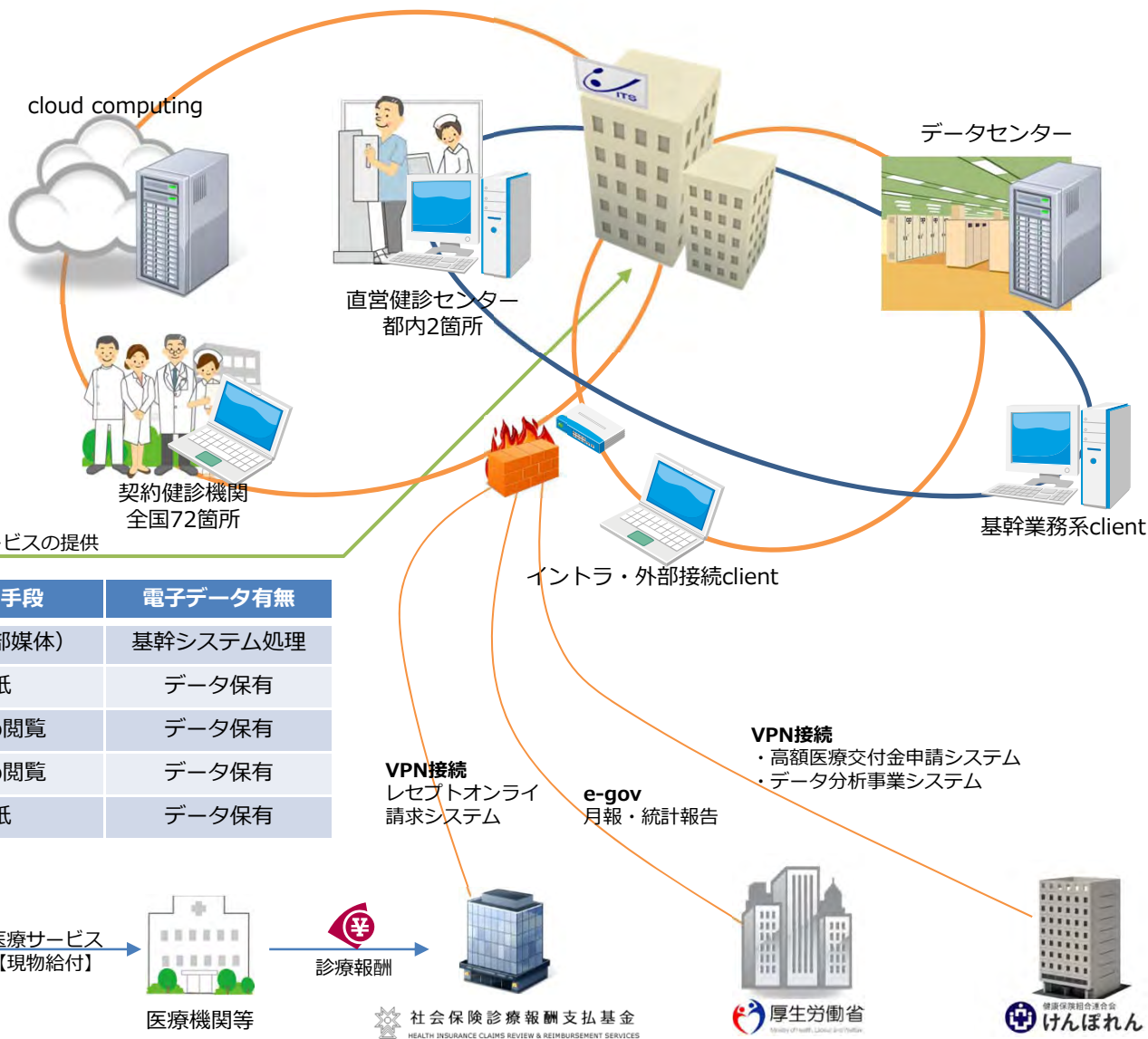
■ 高齢者医療への支援金と納付金は、平成20年度より急激に増加し、同年度は総額で406億円でしたが、今年度予算では720億円を計上し、この6年で被保険者数が117.2%の伸びに対し、**金額では177.3%もの伸び**となっています。今後も、団塊世代が順次65歳に達するため、更なる負担増は避けられないものと予測しています。



2 健保業務に関するICT化の現状

- 健康保険業務を行うための基幹システムと外部接続に利用するイントラシステムの**2系統のネットワーク**を構築しています。
- レセプト・健診等のデータベースを保有していますが、被保険者個人がアクセスできるものは医療費通知・ジェネリック通知の閲覧に留まっています。

<図> 平成25年4月現在 システム・ネットワーク概要



※ 事業主や被保険者への情報提供は、ホームページのほか、**メール配信システム**を導入しています。

※ 健康診査・保健事業の予約や参加申込みは、原則、WEBで申請できる仕組みを内製しています。

項目	現状手段	電子データ有無
各種申請手続き	紙（一部媒体）	基幹システム処理
健診結果	紙	データ保有
医療費通知	Web閲覧	データ保有
ジェネリック通知	Web閲覧	データ保有
レセプト開示	紙	データ保有